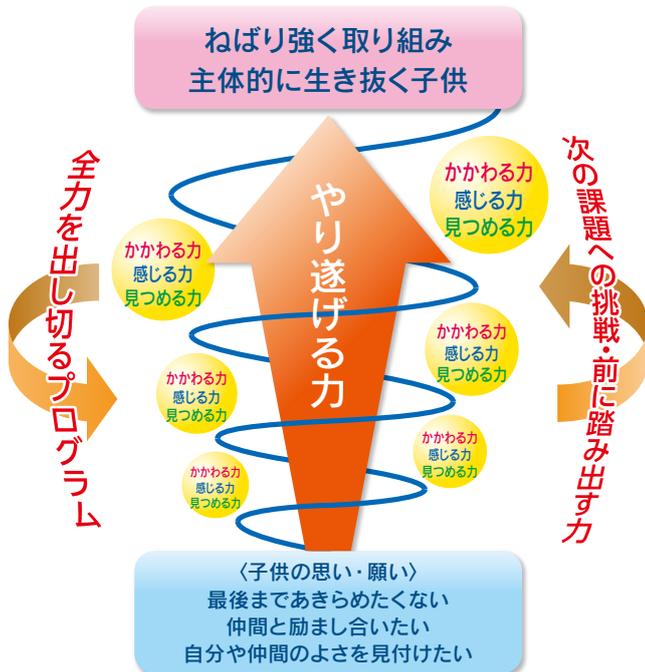


ACTIVE2017 構想図



子供は本来、より良い自分になりたいという気持ちをもっている。その気持ちを顕在化し、『やり遂げる力』を育成するためには、日常的な「体験」だけでなく、意図的な「体験」が重要である。それには、子供たちに負荷をかけ、対象（友達や自然など）に積極的にかかわる中で、自分の成長を実感できるプログラムを組むことが大事である。仲間と共に小さな挑戦と達成を積み重ねることにより『やり遂げる力』も徐々に大きく、強くなっていく。

昨年度のACTIVEでは、意図的に困難な状況をつくり、主体的に困難を乗り越えるプログラムにより、やり遂げる力の高まりを検証できた。その検証の過程において、自己肯定感の高まりが見られた。自己肯定感を高めるためには、自己有用感を獲得することが大切であり、そのためには、他者とのかかわりが必要不可欠であることが分かった。「友達と励まし合って活動に取り組む」「友達のよいところを見つけたり、感じたりすることができる」という自己評価をとおして仲間から自分の存在が認められたという実感を得ることで、自己有用感を獲得していった。その道のりは、試行錯誤と切磋琢磨の繰り返しによるものである。時には、意見をぶつけ合い、納得がいかにくやし涙を流し、一步を踏み出す力を仲間からもらい、仲間の言動に憧れ、深く自己を見つめる力が増していった。そして得た自己有用感は、物事に取り組む意欲を一層高

めた。今年度は、その2年目の取組である。昨年度のプログラムや進め方を見直し、仲間同士やスタッフとのかかわりを増やし、さらなる成長を目指した。

生き抜く力の基礎の3つの力「かかわる力・感じる力・見つめる力」

生き抜く力の基礎として「やり遂げる力」を支える3つの力を「かかわる力・感じる力・見つめる力」と定めた。これは、人が生きていくためには、課題解決に向け他者とより良くかかわること、他者や自分の成長、自然を含む周辺環境などを積極的に感じとること、自分自身の思いや願い、もてる能力をしっかりと見つめること、この3つが必要不可欠だと考えたからである。

構想図にあるように、「やり遂げる力」は、この3つの力の成長に支えられながら大きくなっていく。「やり遂げる力」を高めるためには、子供たち自身がこの3つの力の成長を自覚し、その過程を螺旋的に繰り返していくことが大切である。そこで、3つの力をさらに子供の姿に下ろした具体的な評価項目を自己評価の規準とし、毎日自己評価することとおして、成長の自覚を促すこととした。また、昨年度の課題から、「かかわる力」に、「聞く」観点を入れ「聞く・話す」の双方向的な評価ができるように、「相手の気持ちを考えながら話を聞いたり、行動したりすることができる」を入れた。

ACTIVE2017 3つの力「かかわる力」「感じる力」「見つめる力」

	具体的 な 子供の姿 (評価項目)	具体的 な 子供の姿 (評価項目)	具体的 な 子供の姿 (評価項目)
かかわる力	自分から進んで友達や指導者に話すことができる	感じる力	自分自身のよいところを見つけることができる
	相手の気持ちを考えながら話を聞いたり、行動したりすることができる		自然の素晴らしさや厳しさを感じるすることができる
	友達と励まし合って活動に取り組むことができる		仲間の存在の大切さを感じることができる。
			見つめる力
			あきらめないで最後まで頑張り抜くことができる
			指示されるだけでなく、自分で考えて行動することができる